

日本産業衛生学会東海地方会

## 地方会ニュース

発行所 地方会ニュース編集事務局  
〒 470-1192  
愛知県豊明市香掛町田楽ヶ窪 1-98  
藤田保健衛生大学医学部公衆衛生  
電話 (0562) 93-2453  
FAX (0562) 93-3079  
発行責任者 井谷 徹

(題字 皿井 進筆)



—労働衛生研修会における講演とリラクゼーションの実技—

## アウトソーシングと企業外健診機関

木下 勝也 (財団法人近畿健康管理センター)



充実した内容の東海地方会ニュースの話題でなくて恐縮です。2年前の関東地方会ニュースに「最近の厳しい経済状況の中で常勤スタッフでなくても可能な健診業務からアウトソーシングしていく時代になった」という専属産業医の報告記事がありました。私は

専属産業医を定年退職後健診機関に勤務して2年余、健診を委託する側から委託される立場になりました。健診機関の選択利用に関する留意点としては産業衛生学会産業医活動委員会の提言や中災防の特殊健診等の規程があり産業医との連携、精度管理、適正料金等が重要視されています。最近の健診機関を取り巻く状況は厳しい企業環境と同様にデフレ不況の中で低料金と過剰サービスが求められています。市場原理に基づく低料金化には健診機関側のコスト低減策だけでは限界があります。健診の目的に沿った実施能力や精度管理を維持していくためには適正な料金が必要であり、特に法に基づく健診の場合は医療への株式会社参入等の問題も含めて何らかのガイドラインが必要と考えます。さらに健診の経済性、効率性だけでなく効果性が重要になっています。ドック健診や生活習慣病健診にお

いては行動変容による一次予防や健康寿命の実現といった生涯健康管理へ寄与すること、法に基づく健診では健診結果を作業環境管理や作業管理に役立てることにより労働者が常に健康な状態で働くことができるように支援するといった本質的サービスが重要になってきています。これらに対する私共の対応は(1)職員の能力向上、(2)検査項目だけでなく業務全般の精度管理事業への参加、(3)ITによるデータベース活用としてプライバシー保護に配慮し自由にデータ検索と加工が可能な健診結果情報検索システムの無料提供、(4)公益法人として労働衛生研修会開催等公益事業サービスの提供、さらに(5)「巡回及び診療所施設における健診等総合健康管理サービスの設計及び提供」で品質マネジメントシステムISO9001:2000の認証を取得して精度管理、顧客ニーズ、顧客満足度についてPDCAサイクルによる継続的改善に取り組んでいます。これらの対応と共に産業医、産業保健スタッフ、医療機関及び他健診機関との連携、ネットワーク作りも重要と考えます。今後産業保健のアウトソーシング化がさらに進めば信頼される優良健診機関の育成が重要な課題になると考え産業衛生学会会員の諸先生のご指導とご支援に期待しております。

# 特集 平成15年度 日本産業衛生学会 東海地方会総会及び研修会

## はじめに

本年度の研修会は、岐阜市のホテルグランヴェール岐山でゆとりある雰囲気の中で開催することができました。本年1月に発足した企画運営委員会のメンバーを中心に、地元ゆかりの深い先生方の講演を3題企画し、当日は岐阜県産業衛生研究会の会員を中心に会の運営にあたっていただき盛況に実施することができました。今回も岐阜県医師会との共催ということで、地方の産業医の先生方とも一緒に勉強することができました。出席者は81名（会員61名・非会員20名、岐阜36名・愛知27名・静岡10名・三重7名・その他1名）でした。特に今回初めて試みた交流会では各テーブルごとに熱心な討論が行われ、なごやかな雰囲気なか会員相互の親睦をはかることができました。

(企画運営委員会代表 加藤 保夫)

## プログラム

日 時 2003年6月20日(金) 10:10~16:15

場 所 ホテルグランヴェール岐山

<午 前>

特別講演1「経営管理と労働衛生管理の連携」

—なぜ経営者は、労働衛生に目を向けられないのか—

吉村庸輔 (アームス経営工房・吉村社会保険労務士事務所)

座長: 井奈波良一 (岐阜大学医学部 産業衛生分野)

東海地方会総会

議長 牧野茂徳 (岐阜大学医学部看護学 地域精神看護学講座)

<午 後>

特別講演2「快適職場環境と色彩」—色彩心理学の立場から—

船橋あつ子 (パティオカラールーム)

座長: 岩田弘敏 (岐阜産業保健推進センター)

交流会 (身近な産業衛生問題についての自由討論)

特別講演3 「職域における肝疾患管理の進め方」

—肝炎等の診断・治療の最近の話題と保健指導の実際—

森脇久隆 (岐阜大学医学部消化器病態学 教授)

座長: 上村博幸 (岐阜県労働基準連合会 労働衛生センター)



交流会

## 特別講演1「経営管理と労働衛生管理連携」

—なぜ経営者は、労働衛生に目を向けられないのか—を聴いて

木村 英道 (神岡鉦業診療所)



企業における安全衛生活動は、安全活動がほとんどで衛生管理は行われていないのが現実です。企業の安全衛生委員会に出席された方は御存知のことと思いますが安全の課題ばかりです。

今回の講演は衛生管理も必要であることを強調されるためのものでしたが、演者には大変申し訳ないのですが、内容が企業経営の手法のものが多く、また安全の話が多かったように思われました。テーマである「なぜ経営者は、労働衛生に目を向けられないのか」についての具体的な説明がなく、あまりよく分らなかったのが実感です。

一般に企業では「安全は分るが衛生は分らない」、また「健康管理は医療行為だから医療従事者の仕事だ」と言った感覚が強く、安全のように熱心には取り組んでいません。たしかにケガをすれば血が流れ、指や足を切断し、時には死亡し分りやすく衝撃的です。

一方、高血圧症や糖尿病と言った普通の病気や、じん肺、騒音性難聴、有機溶剤中毒などの職業病は、外見上普通の人と変わらず分りにくいことも事実です。私自身産業医として勤めていますが現実では前述した通りです。しかし病気と事故とのからみ、また病気の治療ではなく仕事上での健康障害を防止するための活動であることを毎回の安全衛生委員会で説明し理解してもらい、衛生管理活動に力を注ぐよう努力しているのが現状です。また不況の中、人的なゆとりがなく衛生管理者や作業主任者の活動が制限を受けており、このことも一因ではないかと考えられます。

一方、行政の指導にも問題があると考えます。厚生労働省ならびに鉦山保安監督部(経済産業省)の行政監督官、とくに産業医学関係者と接触のない後者は健康管理(衛生管理)の手法を習得していないため、衛生管理に関する指導は全くない。今後は衛生管理についても指導が出来るよう衛生管理の手法について研修を受けることが重要と考えます。なぜならば監督官の指導なくしては大部分の企業の衛生管理活動は、それほど簡単には推進されるとは思われません。産官学が一体となり衛生管理活動を押し進める働きが必要と考えます。

従業員が安全に無事故で働くためにはまず健康であることが基本です。経営者(管理監督者)は目先の事故のことはばかりに気をとら



吉村庸輔先生

れず、災害防止の長期計画を立てるためにも衛生管理活動を推進し、同時に安全対策も実施する姿勢を持つことが必要と考えます。衛生管理に目をむけずにいればいずれ多くの職業病が発生する可能性があることを、経営者は熟知することが大切です。

講演の感想文が日頃体験していることへの私見になってしまい大変申し訳ありません。演者には重ねて御わび申し上げます。

## 特別講演2「快適職場環境と色彩」 —色彩心理学の立場から—を聴いて



綿貫ルミ子 (ソニーイーエムシーエス)

職場環境に上手く色彩の効果を利用すると、社員同士のコミュニケーションづくりから健康維持、快適作業環境の維持といったさまざまな方面に活用することができるのではないかと、という内容をテーマに、色彩心理ノートを用いた実習も含み、今回の講演が行われました。

船橋講師は、色と心理の関係について、「赤」は情熱的・積極的、「青」は冷静的・鎮静的、「緑」はバランス・平等的、「橙、黄」はコミュニケーション的なことを意味すると述べておられました。

職場環境でこれらの色の影響力を利用するには、光(照度)という条件も切り離せない条件となるようです。インテリアや作業場で環境を落ち着かせるために何か色を用いる場合、光を受けないとその色彩の効力が上手く引き出せないからです。例えば、黒の服を着て暑いまたは暖かいと感じるのは、太陽の光があたった時のみで、日陰ではその様な効果は感じ取れないばかりでなく逆に寒い、冷たいと感じます。ということは、色彩を職場環境に活かそうと思うと、光(照度)も重要となり、それらと色彩の相互作用で始めて快適な環境が生まれるということです。したがって普段の巡視では、色彩のみならず照度も考慮する必要があるということです。

また色彩の効果は、我々産業衛生学会で重要視している健康増進・疾病の予防といった一次予防にも、上手く利用できるのではないかと思います。特にメンタルヘルス分野においては、その効力に多大な期待をしています。

近年、心療内科では自律神経失調症などで代表される不安障害の治療法として、薬物療法と平行し自律訓練法や交流分析などのカウンセリングがおこなわれております。色彩も心理と密接に関係するため、色彩の変化は自律神経系に作用して生体機能に色ごとで異なる影響を与えうるのです。このことを上手く利用すれば、自律



船橋あつ子先生

訓練法と並び、不安障害などの治療法のひとつとして色彩療法を用いることができるのではないかと考えられます。

色彩・照度を効果的に活用し、より快適な職場環境を作ることができればと思います。貴重な御講演を頂き、ありがとうございました。

## 特別講演3「職域における肝疾患管理の進め方」 —肝炎等の診断・治療の最近の話題と保健指導の実際—を聴いて



杉本日出子 (豊田工機)

定期健康診断や2次検査で肝炎ウイルス検査を行っている事業所は多い。肝炎ウイルスの検査は行ったものの、慢性肝疾患に移行させないようにするためにはどうしたらよいのかと思索している時に、岐阜大学医学部 森脇教授のご講演をお聴きすることができた事は大変幸運であった。以下にご講演の内容をまとめて記述する。

肝疾患には、生活習慣病としての肝疾患である脂肪肝とウイルス肝炎がある。脂肪肝の発生頻度は、健康成人の7~14%で、その原因は中心性肥満にある。BMI 25以上は脂肪肝であることが多い。診断は、GPT、γ-GTP、中性脂肪、超音波、CTで行う。GPT、γ-GTP、中性脂肪が高い人は特に注意すべきである。治療は、食事と運動療法で行う。脂肪肝の食事療法のポイントは、1日の摂取カロリーの設定で、25kcal/kgで計算する。運動療法は有酸素系を中心に、長く続けられる運動を選ぶことがポイントである。ウイルス肝炎については、献血におけるキャリア率は、B型、C型とも0.9%で、全年齢では約350万人(B型130万人、C型215万人)と推定される。慢性肝疾患(慢性肝炎、肝硬変、肝がん)の原因は、C型62%、B型15%、非B非C型4%、アルコール12%、その他6%となっている。キャリアからの肝炎発症率はB型は10%であるが、C型は100%と非常に高く、慢性肝炎、肝硬変、肝がんへ移行する率はB型よりもC型が高い。慢性肝炎を防ぐためには、炎症を抑えることとウイルスを排除することがポイントとなる。肝疾患による就業規制は、脂肪肝は制限は不要、ウイルス肝炎はGOT、GPTの値を100IU/l以内におさえる。過重でなければ特に就業制限をする必要はないが、定期的なフォローアップが必要である。

生活習慣病対策として、肝疾患管理を積極的に実施することの大切さを再認識するとともに、本講演で学んだことを、肝疾患患者の保健指導に役立てていきたいと思う。



森脇久隆先生

## 東海地方会を転出するに際して

山内 徹 (前・三重大・医・公衆衛生)



今年3月末日をもって三重大学を定年退官いたしました。平成3年12月に三重大学へ赴任した時は、当地方会にも暖かく仲間に加えて頂きました。11年4ヶ月、決して長い期間ではありませんでしたが、それまで「ペーパー会員」であった私は多くの場面で産業保健のいろいろな問題を学ばせて頂き「本当の会員」にして頂きました。学びの場は、現場としては「月1」産業医をしました地域の一職場でしたが、地方会の学会や研修会、産業精神保健研究会の参加や三重産業保健推進センターでの研修(講師であったり受講生であったり)などです。私の主たる研究テーマが大気汚染を中心とした環境保健と有機リン化合物の神経毒性であったので産業保健に全力投球は出来ませんでした。労働者のメンタルヘルスケアに特に興味がありましたので産業精神保健研究会での講演は大変勉強になりました。在任中は地方会の事業にはあまり協力できなかったことを申し訳なく思っておりますが、平成7年4月に竹内康浩 名古屋大学教授(当時)が会長を務められた第68回全国学会の運営に参加させていただいたことは、大規模な学会の形成はこうするのかと貴重な勉強をさせて頂きました。この経験は後に大気環境学会と日本衛生学会の開催準備に大いに参考になりました。

また在任中に、産業衛生学会のみならずが国の社会医学の重鎮をお二人も幽界にお見送りしなければならなかったことはまことに慙愧に耐えないことでした。島正吾先生には直接ご指導いただく機会はありませんでしたが、地方会開催や地方会理事会などの折に多くの貴重なご助言を頂きました。さらに館正知先生の急逝の報は大変なショックでした。先生は恩師の故辻義人先生の朋友ということで福島時代から私にも折に折にお声をかけて頂き、勝手にもう一人の恩師と思っておりました。東海公衆衛生学会を開催したときにはご講演というご無理をお願いしたのでした。私個人の悲しみにもまして斯界にとってまことに惜まれる二人の巨星を失ってしまったものでした。あらためてお二人の先生のご冥福をお祈りする次第です。

定年退官後は、東海の地に留まって東海地方会の発展に非力ながらも貢献すべきところですが、止むを得ざる事情のために東北の地に戻るようになりました。井谷地方会長はじめ会員の方々にお詫びしなければなりません。東北地方会に仲間入りし、早速7月26日の地方学会に参加の予定です。また、当地の事業所の専任産業医として、これまでは実践を伴わない講義ばかりをしてきた産業保健について、一から出直すつもりで勤務しております。現在の製造業一般の主たる課題は、労働者の高齢化対策とメンタルヘルスであります。1年毎に正確に平均年齢が1歳上昇する労働者の健康問題はまさに生活習慣病と、作業力の低下と作業ノルマの乖離からくるストレスです。地道に1つ1つ取り組んでいく他ないと腕組みしている今日この頃です。

長い間お世話になりました。全国学会などでお会いしましたらお声をかけてください。東海地方会の益々のご発展を切に祈っております。

## 着任のご挨拶

横山 和仁 (三重大・医・公衆衛生)



平成15年4月1日付けで山内 徹先生(現名誉教授)の後任として三重大学医学部公衆衛生学講座を担当することとなり、関東地方会より東海地方会に転入してまいりました。井谷徹 企画運営委員長のもとに開催されます第77回日本産業衛生学会総会をはじめ東海地方会の活動に積極的に貢献したいと存じます。皆様には何かとお世話になると思っておりますが、なにとぞよろしくご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

私のこれまでの主な研究は、産業・環境保健領域における神経、精神および行動障害の疫学研究です。すなわち、鉛、有機溶剤、農薬などの有害環境因子が神経行動機能に及ぼす影響を人間集団を対象に研究してきました。例えば東京地下鉄サリン事件の被災者でサリンの中枢神経影響とPTSDを明らかにし、環境保健、産業医学および神経学領域の専門誌への報告とコリン作動性機構国際会議・米中毒学会での招待講演を行いました。このほか種々の職域および地域の集団を対象に国内外で研究を行ってきました。現在は文部科学省科学研究費補助金(海外学術調査)や東京大学AGS(Alliance for Global Sustainability)研究助成を得て、マレーシア科学理科大学、テヘラン大学や産業医学総合研究所、東京大学、東京労災病院等の国内外の機関と共同研究を進めています。他には、1) 神経行動評価法の確立と応用、2) 健康問題の行動医学、3) 実験的末梢神経障害、4) 神経精神免疫学の応用などを研究テーマとしてきました。以上の研究活動は、日本産業衛生学会産業神経・行動学研究会(本年度より私が代表世話人)、ICOH神経中毒・精神生理学委員会、日本行動医学会を中心に行ってきました。

私はいくつかの企業で産業医活動に携わり、また日本産業衛生学会指導医として専門医の教育にあたってきました。さらに産業医学の教育を大学院・学部で担当してきました。これらは今後ともぜひ続けてゆきたいと思っております。来年度から義務化される卒後研修で、三重大学医学部は研修後半期の選択科のひとつとして産業医学実践コースを設けることになりました。産業保健・勤労者医療を独立行政法人化後の当大学の特色として打ち出せば良いのではないかと考えています。

当県では、坂本弘名誉教授、滝川寛産業保健推進センター所長をはじめ、多くの産業衛生学会会員が産業保健活動をすすめていらっしゃいます。大学の立場からこうした活動に貢献することができれば幸いです。重ねて皆様のご指導をお願い申し上げます。

来年4月には産業神経・行動学研究会を津で開催いたしますので、皆様のご参加をお待ちしております。

研究会 (<http://onbm.umin.ne.jp/>)

および当講座 (<http://www.medic.mie-u.ac.jp/pubhealth/>)

のホームページもご覧いただければ誠に幸いです。



## 話 題

### トヨタ自動車のSARS対策について



廣田 直敷 (トヨタ自動車)

2003年春、中国広東省から香港、ベトナムを中心とした東南アジア各国、そして、カナダ・トロントを席卷したSARS(重症急性呼吸器症候群)は、各地域に製造と販売の拠点を有する当社にも大きな影響を及ぼした。未知の病原体に対する恐怖と共に、出張の自粛、赴任者と家族の一時帰国は、生産・販売の計画を遅延させ、生身の人間を通さないで行う生産の技術移転・販売の難しさを実証した。幸いにも1人のSARS患者の発症も見なかった。運が良かったとも言えるが、未然防止のための配慮と危機管理重視が、実を結んだとも考えられる。

実際には、早い段階で安全衛生部署と人事担当部署が事務局となり(SARS緊急対策本部)、統括産業医や各工場の海外担当部署と連携した①情報の共有化、②危機管理体制の見える化を行った。具体的には、3月19日出張者に対してSARSの第1報を作成し、会社の方針を示している。WHOや厚生労働省の情報を抜粋して、伝播地域と症状および感染経路と病原体(当時は不明)について言及し、地域を指定して不要不急の出張を延期するように求めた。決裁権限を役員に限定し出張者を物理的に制限した。その上で、感染防止のための注意と、疑い例に該当した場合の対応方法について社内のイントラネットT-waveで公開した。順次更新して各事業所の担当に逐次Emailで配信した。この活動は、WHOの『トロント・台湾の感染地域指定解除』『日本政府勧告解除』の7月7日まで継続され12報を数えた。

6月初旬、SARSの小康状態を見て、安全と考えられた地域から赴任・出張を再開した。事前に、安全衛生部門のスタッフと海外渡航科医師が現地視察を行い、その上でオリエンテーション(①役員からの説明②帰国者の現状紹介③産業医が病氣と予防についての講義④衛生用品の支給⑤質疑応答)を実施した。生の映像で状況を説明し、空港や工場の様子(検温の実施状況・現地従業員の健康学習会など)、万一の場合に訪れるクリニックの概要が示された。人事担当から帰国後の待機についての説明があった。出張者からは、発熱した場合の対応方法に質問が集中した。出張・再赴任は、その出席後に決済され、全対象者に対して担当産業医が書面で健康チェックを行った。通院状況や日ごろの生活習慣も参考とした。必要に応じて上司とも面談し、健康意識の低い従業員や不安のある者の主張は見送った。

トヨタ記念病院(513床・急性期指定病院・豊田市)は、指定病院にはなっていないが、電話での問合せや帰国者が突然に訪れる場合も散見された。外来には対応手順が示され、N95マスクも準備された。

今冬、ウイルスの特性から再流行が懸念されている。中国の工場では、自主活動で衛生意識が高揚したとの報告がある。国内の各事業所も、経験を生かして予防及び防疫に万全を尽くしたいと考えている。

### 運輸業における睡眠時無呼吸症候群対策



指原 俊介 (JR東海総合病院静岡鉄道健診センター)

ある大規模調査によると、我が国では成人人口の約20%が何らかの睡眠障害を抱えていると推定されています。睡眠障害とは、睡眠と覚醒に関連する多様な疾患を指し、1990年の「睡眠障害国際分類」では88種類の診断名が挙げられています。さらに、現代人の特性である生活の夜型化や睡眠時間の不規則化及び短縮、さらに産業の多様化による交替制勤務の増加等は、睡眠障害を一層深刻にしています。不眠症と過眠症に大別されますが、重度の過眠状態を呈する代表的な疾患が睡眠時無呼吸症候群(SAS)です。

SASは、日本人有病者約200万人とされ、多くが診断されずにいます。放置すると高血圧症、糖尿病、心・脳血管障害等の合併リスクが増大します。このような医学的問題以外に、睡眠時の無呼吸、酸素飽和度低下による覚醒反応は、睡眠の分断化→日中の眠気と集中力の低下→交通事故や労働災害による人命の損失・生産性の低下・家庭内の問題等の社会的損失を引き起こします。

よってSASを含む睡眠障害対策を職域で行うことは重要です。JR東海では、旅客の安全輸送を行うことが使命である・夜勤交替性勤務者が多い・集中力を要する多様な作業と作業環境があるという運輸業の特徴から、実際的な対策が必要でした。少なくとも1999年には、運転士の睡眠調整法や良い睡眠を得るための生活習慣が研究されました。2001年からは産業医が中心となってSAS対策が始まりました。2002年には、SASスクリーニングを本格的に行い、SASが疑われた際は、睡眠専門医に紹介しました。また、2003年2月の山陽新幹線居眠り事件後は、さらに対策を充実しました。このような経緯を経て、労務管理と健康管理上の日常的なSAS対策が整備されました。

要約しますと、

- ① 社員教育；社内広報と講演会、安全衛生委員会  
事業所での情報掲示、ミーティングでの周知
- ② 健康管理；健康診断、職場巡視、職場の業務研究の中で問診・アンケート実施→本人申告
- ③ 労務管理；安全運行指導・点呼の充実→本人申告、休憩・睡眠施設整備
- ④ スクリーニング；携帯型パルスオキシメーター使用
- ⑤ 病院紹介；睡眠専門医との連携
- ⑥ 就業上の措置；運転・夜勤業務に対する就業制限と復職判定等となります。ただし、SASの暗いイメージ？を払拭するために「適切に治療を受ければ症状はコントロールされ、通常生活・勤務ができる」という点を強調しました。健康管理の面を重視し、社員の病院受診・保健指導・職場への申告に対する心理的・時間的制約を取る努力をしたのです。

結果として、この一年間でSASと診断されて治療を受けた社員は20名を超えました。今後も、安全対策と予防医学の観点から、社員が質の高い睡眠を得るための支援を続けていくつもりです。

## フィンランド産業保健視察紀行



榎原 毅 (名市大・院・労働・生活・環境保健学)

### 1. 視察概要

日本と北欧(フィンランド・スウェーデン)の産業保健従事者間での交流会が2003年6月に行われた。日本からは計16名(氏名は文末を参照)が参加し、北欧における産業保健活動の視察や工場見学、意見交流を行った。ここでは、フィンランドの産業保健体制・活動の特徴的な内容や学ぶべき点について、紹介したいと思う。

104 産業保健 104

### 2. 自主活動重視の産業保健サービス体制と法制度

フィンランドでは法律(Occupational Health Care Actなど)により、雇用主はすべての被雇用者に対して産業保健サービス・ケアを提供することが要求されている。また、産業保健サービスをすべての労働者に提供するために、雇用主は1.企業内に産業保健センターを設置、2.複数企業による共同出資の産業保健センターと契約、3.地方自治体による保健所と契約、4.民間の産業保健サービス提供機関と契約のいずれかを実行しなければならない。すなわち、法律では雇用主が満たすべき要求事項を提示し、企業は自己責任のもとで、自主性を重視した産業保健活動を推進する枠組みができていくのが特徴である。

### 3. 小規模事業所におけるマネジメントシステムの展開

フィンランド国立労働衛生中央研究所(FIOH)の研究員であるDr. Monica Bergström氏から、1995-2000年に取り組んだフィンランドに於ける小規模事業所を対象とした活動計画を紹介頂いた。フィンランドでは、産業保健のモデルとして“作業能力の維持(Maintenance of Work Ability; MWA)”を掲げ、1.作業者の健康管理、2.作業条件・作業環境改善、3.作業組織とコミュニティ、4.職業能力の向上、の4側面から多角的に活動が展開されているとのこと。この活動の特徴として、1.事業主の直接的な参加、2.具体的かつ達成可能な目標を掲げた取り組みの重視、3.現場のニーズに密着した活動、4.フォローアップ、評価、改善活動の継続、があげられていた。3/4の企業でアクションプランを策定し、積極的な取り組みが根付いただけでなく、株主資本利益率(ROE)の増加も見られた。まさにマネジメントシステムに基づくcost-benefitの視点を導入した効果的・効率的な産業保健活動が展開されていた。労働者のMWAの向上が生産性の向上に寄与するという発想であり、企業の生産性・利益と労働者の健康をリンクさせて捉えているのは印象的だった。

### 4. 予防活動重視の産業保健活動

フィンランドにおける産業保健活動は予防活動(作業環境・方法の改善など)に主眼が置かれている。さらに、予防活動は主に産業看護師、産業理学療法士(人間工学士)や安全衛生担当者が主体となって取り組んでいる。人間工学的対策の専門スタッフが予防活動の推進に参画しているのは特徴的である。

今回、Turku郊外にあるKORHONEN社(家具工場、従業員数90名)の工場を見学する機会に恵まれ、小規模事業所における産業保健活動を見ることができた。そこでは民間の産業保健サービス提供機関と委託契約を結んでおり、産業看護師が月2回巡視を行っている。実際に工場内の視察を行ったが、小規模事業所であるにも関わらず、作業台の工夫や重量物運搬や中腰姿勢回避のための様々な人間工学的対策が積極的に導入されていた。このように、企業・産業保健サービス提供機関・産業保健推進体制・法制度などが有機的に機能し、予防活動の重要性が小規模作業所にも幅広く浸透してい

ることを実感した。

### 5. おわりに

紙面の都合上、産業保健活動全般について網羅的に紹介することはできなかったが、本研修旅行については産業医ジャーナル(井谷徹:北欧産業保健研修旅行報告,産業医学ジャーナル.no.5,2003)でも紹介される予定である。また、第13回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会においてもポスターセッション(発表者:宮本俊明先生)にて紹介される。詳しくはそちらをご覧頂ければ幸いである。

【参加メンバー】井谷徹(名市大)、高橋謙(産業医大)、内田和彦(産業医大)、荒木田美香子(浜松医大)、井奈波良一(岐阜大)、榎原毅(名市大)、太田充彦(高知医大)、椎葉倫代(新日鉄ソリューションズ)、住徳松子(アサヒビール)、長井聡里(松下電工)、初見智恵(東京通信病院)、浜口伝博(日本IBM)、原邦夫(労研)、古橋功一(名大)、宮本俊明(新日鉄君津)、吉川徹(労研)



KUOPIOの港にてDr.Juhani Kangas KUOPIO労働衛生研究所所長と記念撮影。

ちなみに、この後、優雅にクルージング・ディナーを楽しんだ。

## 学会・研究会

### 第58回職場ストレス研究会

富田 晃行(古河電工)

平成15年5月28日(木)に名大鶴友会館にて、旭化成(株)富士社社の専属産業医である住吉健一先生から静岡産保センター方式『職場復帰支援システム』の紹介をしていただきました。住吉先生は大企業での産業医経験や中小企業に対する産保センター相談員としての経験から、特に、産業保健スタッフのいない50人~200人規模の事業場における職場復帰支援システムを提案されています。中小事業主と精神科主治医との橋渡しにその事業場の嘱託産業医(不在の場合は地域産業保健センター所属の医師)が関与し、復職支援の中心となって全体をコントロールしていけるような書式を考案されました。そして、2~3年後の本格運用を目指して、医師会(嘱託産業医)・精神科医・事業者・行政・労働組合などに広報活動を開始されています。ここで、システムの中核となる嘱託産業医の資質を高めない本格運用は難しいため、静岡県内の嘱託産業医に対して相当詳細な説明会を繰り返し実施していくとのことでした。フロアからは、復職の決定者である事業者の意見が反映されにくいなどの議論が展開されました。精神疾患による長期休職後の職場復帰は産業精神保健の第3次予防として重要なテーマですが、本人のプライバシー保護や事業者側の安全配慮義務などもあり、当事者間で誤解のないようにいかに円滑に復職を支援していくかがポイントとなるようです。

## これからの諸行事予定

## 1. 職場ストレス研究会

## ①第59回

日 程：2003年9月17日(水) 14:00～16:00  
場 所：名古屋大学医学部鶴友会館2F 大会議室  
テーマ：ストレス対策としてのメンタリングについて  
講 師：渡辺 直登(慶應義塾大学)

## ②第60回

日 程：2004年2月18日(水) 14:00～16:00  
場 所：名古屋大学医学部鶴友会館2F 大会議室  
テーマ：女性労働者のストレスとストレスコーピング  
講 師：足立はるゑ、巽 あさみ(藤田保衛大)  
問い合わせ先：  
職場ストレス研究会事務局 愛知医科大学医学部衛生学教室  
TEL: 0561-62-3311(内線2312) FAX: 0561-63-8552  
E-mail: syokuba@aichi-med-u.ac.jp

## 2. 第58回日本体力医学会

日 程：2003年9月19日(金)～21日(日)  
会 場：静岡市コンベンションアーツセンター・グランシップ  
大会長：星 猛(しずおか健康長寿財団理事長)

## 3. 第43回日本労働衛生工学会、第24回作業環境測定研究発表会

日 程：2003年10月8日(水)～10日(金)  
場 所：ホテル ライフォート札幌(札幌市中央区南十条西1丁目)  
ホームページ：<http://www.jawe.or.jp/topics/2003/030515.html>

## 4. 第13回日本産業衛生学会 産業医・産業看護職全国協議会

日 程：2003年10月17日(金)～18日(土)  
会 場：アクトシティ浜松 TEL: 053-451-1112  
問い合わせ先：聖隷健康診断センター内  
第13回日本産業衛生学会 産業医・産業看護職全国協議会事務局  
TEL: 053-473-5501 FAX: 053-474-2505

## 5. 日本産業衛生学会 産業衛生技術部会第8回全国大会

日 程：2003年10月29日(水)  
会 場：名古屋市中企業振興会館 4階 第7会議室  
問い合わせ先：産業衛生技術部会 第8回全国大会事務局  
(名古屋市衛生研究所 土屋博信)  
TEL: 052-841-1511 FAX: 052-841-1514

## 6. 平成15年度日本産業衛生学会東海地方会学会

日 程：2003年11月29日(土)  
会 場：藤田保健衛生大学 医学部1号館フジタホール500など  
特別講演：「音楽家の作業関連運動器障害」  
シンポジウム：「睡眠に関わる産業保健のあり方を考える」  
一般演題の申し込み：

期日：2003年9月30日(必着)  
申込方法：次の①～③を折り曲げずにクリアホルダー等で保護し、簡易書留で事務局までお送りください。

- ①講演集原稿(下記原稿作成参照)とそのコピー2部
- ②「産業衛生学雑誌」掲載用の要旨1部(本文400字以内)
- ③受付確認用官製葉書1枚(表面に主発表者の住所、氏名、裏面上部に演題名、主発表者名、連絡先を記入)

原稿作成：  
1) ワープロ使用で文字は10pt以上、用紙はA4白上質紙を縦使用・横書き、白黒印刷、ページ数は自由  
2) 文頭に演題名、発表者(主発表者に○印)、所属を明記  
3) 用紙の周囲余白は幅2.5cm  
4) 演題名の前部は演題番号を付けるため、用紙の左端から6.0cm程余白とする

事務局：平成15年度日本産業衛生学会東海地方会学会事務局  
〒470-1192 愛知県豊明市杏掛町田楽ヶ窪1-98  
藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学教室内  
TEL: 0562-93-2453 FAX: 0562-93-3079  
E-mail: emikoy@fujita-hu.ac.jp

## 7. 第4回日本産業衛生学会産業看護実力アップコース

日 時：2004年1月30日(金)～31日(土)  
場 所：飯田橋レインボービル 1階A会議室  
(東京都新宿区市谷河原町11 TEL: 03-3260-4791～3)  
対 象：①日本産業衛生学会産業保健師の登録者  
②2日間続けて出席できる方(遅刻厳禁)

## 地方会理事会

## 平成14年度 第5回理事会

日 時：平成15年1月18日(土) 10:00～  
場 所：名古屋市立大学医学部研究棟11階特別会議室  
出 席：34名 委 任：23名  
報告事項 1) 島地方会名誉会長ご逝去について 2) 本部連絡事項 3) 地方会事務局連絡事項 4) 第77回日本産業衛生学会総会準備状況報告 [部会報告] 第2回学術部会 第3回財務部会 第2回広報部会 5) 第8回産業衛生技術部会大会準備状況 6) 第18回産業医産業看護職衛生管理担当者のための研修会準備状況 7) 平成13年度東海地方会誌の発行について 8) 地方会ニュース編集状況 9) 「働く人々への健康支援フォーラム」への対応 10) 関連学会・研究会報告 11) 今後の関連学会・研究会

協議事項 1) 第13回産業医産業看護職全国協議会企画運営について 2) 地方会ニュース「島名誉会長追悼号」の発行について 3) 次年度地方会活動について

## 平成14年度 第6回理事会

日 時：平成15年4月12日(土) 10:00～  
場 所：名古屋市立大学医学部研究棟11階特別会議室  
出 席：44名 委 任：18名

報告事項 1) 館 正知先生ご逝去ならびに2002年度物故会員について 2) 本部連絡事項 3) 地方会事務局連絡事項 4) 第18回産業医産業看護職衛生管理担当者のための研修会開催報告 5) 平成15年度地方会総会並びに研修会準備状況報告 6) 平成15年度地方会学会準備報告 7) 地方会ニュース編集状況 8) 第77回日本産業衛生学会総会準備状況報告 9) 第13回産業医産業看護職全国協議会準備報告 10) 第8回産業衛生技術部会大会準備状況11) 関連学会・研究会報告 12) 今後の関連学会・研究会

協議事項 1) 地方会理事ならびに執行体制について 2) 第13回産業医産業看護職全国協議会企画運営体制について 3) 季刊「ビルと環境」への寄稿依頼について 4) その他

## 平成15年度 第1回理事会

日 時：平成15年5月10日(土) 10:00～  
場 所：名古屋市立大学医学部研究棟11階特別会議室  
出 席：38名 委 任：18名

報告事項 1) 本部報告事項 2) 産業医部会幹事会報告事項 3) 地方会事務局報告事項 4) 平成15年度地方会総会並びに研修会準備状況報告 5) 平成15年度地方会学会準備状況報告 6) 地方会ニュース編集状況 7) 第77回日本産業衛生学会総会準備状況報告 8) 第13回産業医産業看護職全国協議会準備状況報告 9) 第8回産業衛生技術部会大会準備状況報告 10) 関連学会・研究会報告 11) 今後の関連学会・研究会

協議事項 1) 平成14年度事業報告・決算報告案 2) 平成15年度事業計画・予算案 3) 理事会等交通費について 4) 平成16年度地方会総会並びに研修会、地方会学会開催地の検討

## 平成15年度 第2回理事会

日 時：平成15年7月12日(土) 10:00～  
場 所：名古屋市立大学医学部研究棟11階特別会議室  
出 席：31名 委 任：23名

報告事項 1) 本部報告事項 2) 産業医部会幹事会報告事項 3) 産業看護部会幹事会報告事項 4) 産業衛生技術部会幹事会報告事項 5) 地方会事務局報告事項 6) 平成15年度地方会総会並びに研修会開催報告 7) 平成15年度地方会学会準備状況報告 8) 地方会ニュース編集状況 9) 第77回日本産業衛生学会総会準備状況報告 10) 第13回産業医産業看護職全国協議会準備状況報告 11) 第8回産業衛生技術部会大会準備状況報告 12) 関連学会・研究会報告 13) 今後の関連学会・研究会

協議事項 1) 来年度以降地方会総会並びに研修会の開催方法について 2) 地方会3部会について 3) その他

第 77 回 日本産業衛生学会

第77回日本産業衛生学会 企画運営委員長 井谷 徹

【日 程】2004年4月13日(内)～16日(金)
特別研修会 2004年4月17日(土)
【会 場】名古屋国際会議場 (名古屋市中区西町1-1)
【学会テーマ】「多様化する職域保健ニーズに応える」
【参加費】学会員：8,000円 (平成16年2月以降 9,000円)
当日ならびに非学会員：10,000円
【演題出題費】2,000円
【懇親会費】6,000円 (平成16年2月以降 7,000円)
【特別企画】
1. メインシンポジウム：「多様化する職域保健ニーズへの対応」
2. 特別講演：
「European response to diversifying occupational health needs」
「産業保健サービスのあり方と専門職の育成」
「経営側からみた産業保健の役割」
「感染症の行方 -SARSに学ぶ」
3. シンポジウム・フォーラム等
シンポジウム5題、フォーラム4題を企画中です。
【演題申込・原稿提出締切日】2003年12月26日(金)
【各種行事予定】
4月13日(内) 評議員会・自由集会
4月14日(内) シンポジウム・特別講演・一般口演およびポスター発表・自由集会
4月15日(内) 総会・シンポジウム・特別講演・学会賞講演・一般口演・懇親会
4月16日(金) シンポジウム・奨励賞講演・一般口演およびポスター発表・自由集会・地域交流集会
4月17日(土) 特別研修会
【問い合わせ先】
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1
名古屋大学大学院医学研究科労働・生活・環境保健学
第77回日本産業衛生学会 事務局 (担当：城、武山)
TEL：052-853-8171 FAX：052-859-1228
E-mail：sanei77@med.nagoya-cu.ac.jp
詳細は、学会ホームページhttp://tosh-net.umin.jp/sanei77をご覧ください。

会 員 の 異 動

【新入会】 愛知 ①赤羽和久 (JR東海総合病院) ②浅野俊子 (NTT西日本健康管理センタ) ③今井由紀 (日本放送協会) ④大野晶子 (大野消化器科放射線科医院) ⑤加藤昌志 (名古屋大学大学院医学系研究科) ⑥久保智英 (名古屋大学医学研究科) ⑦榊原栄美子 (土木建築国民健康保険組合) ⑧佐藤智明 (名古屋大学医学研究科) ⑨渋谷基子 ⑩下方敬子 (デンソー) ⑪戸村はつき (キャノン販売) ⑫藤井美智子 (トヨタ記念病院) ⑬堀江知恵子 (名古屋高裁診療所) ⑭丸尾恵美子 (NTT西日本健康管理センタ) 静岡 ①清水正昭 (静岡県産業環境センター) ②新見亮輔 (浜松医大) ③福田弘子 (浜松労災病院) ④堀 広子 (JR東海総合病院) ⑤俣田直美 (旭化成富士支社) ⑥宮田たみ恵 (富士フィルム) 三重 ①朴豊源 (三重大・医・公衛) ②藤原哲也 (三重大・医・公衛) 岐阜 ①仙石義寛 (岐阜環境コンサルツ) ②平野恭弘 (平野総合病院)
【転入】 愛知 ①五十住和彦 (旭労災病院)…九州より ②川島正敏 (JR東海総合病院)…九州より ③川島陽子 (新日鐵健康管理センター)…九州より ④河野由理 (名市大・看護)…関東より ⑤腰山裕 (北医療協)…四国より ⑥近藤一秀 (住友記念病院)…関東より ⑦田原裕之 (プラザー工業)…九州より 静岡 ①大久保浩司 (浜松赤十字病院健診センター)…関東より ②安田勝彦 (静岡県厚生連中伊豆温泉病院)…関東より 三重 ①小野和子…関東より ②松本幸男 (BASF Japan Ltd.)…関東より ③吉岡佳子 (松下電子部品)…近畿より
【退会】 愛知 ①井出芙蓉美 ②茶谷孝司 ③西脇 洋 (大同病院) ④古川公宣 ⑤三宅忍幸 ⑥宮本博幸 (松下エコシステム) ⑦山田哲也 (名古屋大) 静岡 ①斎藤直子 (NTT東日本伊豆病院) ②隅谷政 (浜松労災病院) ③潘 康明 ④山下雅敏 (ヤマシタ歯科) 岐阜 ①浅野明彦 (浅野医院) ②河辺昌信 (NTT岐阜健康管理所)

編集後記

本号には、榎原毅先生によって、本年6月に名市大の井谷徹教授を団長として行われた北政産業保健研修旅行の内容の一部が「フィンランド産業保健視察紀行」として紹介されております。フィンランドには、これまで留学も含めて過去3回訪れていましたが、いずれも振動障害の研究やその学会発表のためで、フィンランドの産業保健活動一般についてはほとんど無知の状態でした。今回、研修旅行の一員に加えていただき、産業保健重視の職場文化を持ち、責任の明確化と自主的活動を重視しているフィンランドの産業保健活動の現状をある程度知ることができました。また、この研修旅行を通じて、国内の諸先生とのネットワークができたことも有意義でした。 (井奈波良一)

第13回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会ご案内

メインテーマ：多彩な健康管理の課題と展望
【日 程】平成15年10月17日(金)・18日(土)
【会 場】アクトシティ浜松 静岡県浜松市板屋町111-1 TEL：053-451-1112
【主 催】日本産業衛生学会産業医部会・産業看護部会
企画運営委員長 鎌田 隆 (静岡産業保健推進センター 所長)
企画実行委員長 白田多佳夫 (社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷保健事業部 部長)
【共 催】静岡県医師会
【参加費】学会員：7,000円 非学会員：8,000円
【懇親会費】6,000円
【プログラム】
10月17日(金)
12：15～16：00 施設見学
①(社)静岡県産業環境センター都田研究所・(特)環境衛生研究所
②本田技研工業(株)浜松製作所
③(社)福 聖隷福祉事業団
④ヤマハ(株)
16：20～17：30 特別講演
「緑茶とがん予防」～健康づくり・疾病予防に役立つ/産業医・産業看護職のために～
小園伊太郎 (元 静岡県立大学食品栄養科学科)
17：45～19：15 ワークショップ① 「産業保健における職域と地域のネットワーク」を考える
ワークショップ② 「産業口腔保健の現状と課題について」
19：30～
10月18日(土)
10：15～11：45 特別報告① 「災害における産業医の役割」
特別報告② 「深夜業・夜勤交代勤務者の健康生活への支援」
12：00～13：00 ランチョンセミナー① 「歯周病と全身疾患との関係について」
ランチョンセミナー② 「インターネット食指導による生活習慣病の改善」
13：00～14：10 ポスターセッション
14：30～16：30 メインシンポジウム 「これからの産業保健専門職と産業保健活動」
※本協議会は、日本医師会認定産業医、日本産業衛生学会産業看護師・産業看護職継続教育システム・実力アップコースの単位認定を申請中です。
【問い合わせ先】
〒430-0906 静岡県浜松市住吉2-35-8 聖隷健康診断センター内
第13回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会事務局
TEL：053-473-5501 FAX：053-474-2505

日本産業衛生学会 産業衛生技術部会第8回全国大会のご案内

大会テーマ：「職場改善へのサポート」
【日 程】2003年10月29日(木)
【会 場】名古屋市中心企業振興会館 4階 第7会議室
【プログラム】
9：00～ 受付
10：00～ 開会挨拶 中明賢二 部会長、土屋真知子 企画運営委員長
教育講演1：「作業関連腰痛・頸肩腕障害予防の国際的動向」
井谷 徹 (名市大・院・医・労働・生活・環境保健学分野)
座長：中明賢二 (麻布大・環境保健学部)
11：10～12：00 教育講演2：「化学物質対策の現状と課題 一特にダイオキシンに関して」
宮田 秀明 (摂南大・薬学部)
座長：那須民江 (名大・院・医・環境労働衛生学)
12：00～13：30 会場にてビデオ放映「焼却炉解体工事の現状」(鹿島建設 製作)
13：30～16：30 シンポジウム：「法律遵守型から問題解決型職場改善へのステップアップ」
座長：土屋真知子・城 憲秀
新谷 良英 (大同病院)
宮尾 克 (名古屋大・院・多元数理)
加藤 隆康 (トヨタ自動車)
桜井 照彦 (本田技研)
酒井 一博 (労働科学研究所)
総合討論
指定発言：吉田 勉 (藤田保健大)・田中勇武 (産医大)・杉本日出子 (豊田工機)
16：30～ 懇親会
※本大会は、日本産業衛生学会産業看護師・産業看護職継続教育システム・実力アップコース単位認定を申請中です。
※共催：日本人間工学会東海支部
【事務局】土屋博信 (名古屋大学衛生研究所) TEL：052-841-1511 FAX：052-841-1514
e-mail：takara15@sc.starcat.ne.jp

【転出】 愛知 ①吉田貴子 (キャノン販売)…近畿へ
静岡 ①金森雅夫 (浜松医科大)…近畿へ

次回発行 平成16年1月1日
編集責任者 谷脇 弘茂 (藤田保健大)

編集委員 (五十音順)

- 市原 学 (名大) 井奈波良一 (岐大)
加藤保夫 (岐阜産業保健センター) 後藤円治郎 (住友軽金属)
五藤雅博 (旭労災病院) 後藤義明 (プラザー工業)
榊原久孝 (名大) 住吉健一 (旭化成富士)
高崎正子 (東芝四日市) 城 憲秀 (名市大)
巽あさみ (藤田保健大) 寺澤哲郎 (UFJ銀行)
長岡 芳 (藤田保健大) 松田 元 (松下電工四日市)
松本忠雄 (愛知県津島保健所) 武藤繁貴 (聖隷健診センター)
山田琢之 (名古屋労働性コンサルタント) 吉田 勉 (藤田保健大)
渡邊美津津 (愛知医大)